

相模原市寄附金積立基金条例について
相模原市寄附金積立基金条例を次のように制定する。

平成24年5月30日提出

相模原市長 加山俊夫

相模原市寄附金積立基金条例

(設置)

第1条 本市を応援しようとする個人又は法人その他の団体からの寄附金を有効に活用し、より暮らしやすいまちづくりに資する施策の財源とするため、相模原市寄附金積立基金(以下「基金」という。)を設置する。

(積立て)

第2条 基金として積み立てる額は、前条に規定する基金の設置の目的(以下「設置目的」という。)に添う寄附金の額とする。

(管理)

第3条 基金に属する現金は、金融機関への預金その他最も確実かつ有利な方法により保管しなければならない。

2 基金に属する現金は、必要に応じ、最も確実かつ有利な有価証券に代えることができる。

(収益の処理)

第4条 基金の運用から生ずる収益は、一般会計歳入歳出予算に計上して、基金に編入するものとする。

(処分)

第5条 基金は、その設置目的を達成するための事業に要する費用に充てる場合に限り、その全部又は一部を処分することができる。

(委任)

第6条 この条例に定めるもののほか、基金の管理について必要な事項は、市長が別に定める。

附 則

この条例は、平成24年7月1日から施行する。

提案の理由

本市を応援しようとする個人又は法人その他の団体からの寄附金を有効に活用し、より暮らしやすいまちづくりに資する施策の財源とするため、基金の設置その他所要の定めをいたしたく提案するものである。

相模原市市税条例の一部を改正する条例について
相模原市市税条例の一部を改正する条例を次のように制定する。

平成 2 4 年 5 月 3 0 日提出

相模原市長 加 山 俊 夫

相模原市市税条例の一部を改正する条例
相模原市市税条例(平成 1 6 年相模原市条例第 7 号)の一部を次のように改正する。
附則第 4 条の 2 を附則第 4 条の 3 とし、附則第 4 条の次に次の 1 条を加える。
(法附則第 1 5 条第 2 項第 6 号の条例で定める割合)
第 4 条の 2 法附則第 1 5 条第 2 項第 6 号に規定する市町村の条例で定める割合は、
4 分の 3 とする。

附 則

(施行期日)

- 1 この条例は、公布の日から施行する。
(固定資産税に関する経過措置)
- 2 改正後の附則第 4 条の 2 の規定は、平成 2 4 年 4 月 1 日以後に取得された地方
税法及び国有資産等所在市町村交付金法の一部を改正する法律(平成 2 4 年法律
第 1 7 号)第 1 条の規定による改正後の地方税法(昭和 2 5 年法律第 2 2 6 号)附
則第 1 5 条第 2 項第 6 号に規定する除害施設に対して課すべき平成 2 5 年度以後
の年度分の固定資産税について適用する。

提案の理由

地方税法及び国有資産等所在市町村交付金法の一部を改正する法律(平成 2 4
年法律第 1 7 号)による地方税法(昭和 2 5 年法律第 2 2 6 号)の改正に伴い、公
共下水道の利用者が設置した除害施設に対して課する固定資産税の課税標準の特
例に係る割合を定める規定の追加をいたしたく提案するものである。

議案第 6 4 号関係資料

相模原市市税条例の改正の概要

1 改正の内容

公共下水道の利用者が設置した除害施設に対して課する固定資産税の課税標準の特例に係る割合を定める規定の追加(附則第 4 条の 2 関係)

公共下水道の利用者が設置した除害施設のうち、平成 2 4 年 4 月 1 日から平成 2 7 年 3 月 3 1 日までの間に取得されたものに対して課する固定資産税の課税標準が、課税標準となるべき価格に 4 分の 3 を参酌して 3 分の 2 以上 6 分の 5 以下の範囲内において市町村の条例で定める割合を乗じて得た額とされたことに伴い、当該割合を 4 分の 3 とする規定を追加するもの

2 施行期日

公布の日

個人の市民税の控除対象となる寄附金を受け入れる特定非営利活動法人を指定するための基準、手続等に関する条例について
個人の市民税の控除対象となる寄附金を受け入れる特定非営利活動法人を指定するための基準、手続等に関する条例を次のように制定する。

平成 2 4 年 5 月 3 0 日 提出

相模原市長 加 山 俊 夫

個人の市民税の控除対象となる寄附金を受け入れる特定非営利活動法人を指定するための基準、手続等に関する条例
(趣旨)

第 1 条 この条例は、地方税法(昭和 2 5 年法律第 2 2 6 号)の規定により個人の市民税の控除対象となる寄附金を受け入れる特定非営利活動法人を指定するための基準及び手続並びに当該寄附金を受け入れる特定非営利活動法人の適正な運営組織及び事業活動の実施を確保するための措置等について必要な事項を定めるものとする。

(定義)

第 2 条 この条例において「指定特定非営利活動法人」とは、指定(特定非営利活動促進法(平成 1 0 年法律第 7 号)第 2 条第 2 項に規定する特定非営利活動法人(以下「特定非営利活動法人」という。))を、地方税法第 3 1 4 条の 7 第 1 項第 4 号に掲げる寄附金を受け入れる特定非営利活動法人として条例で定めることをいう。以下同じ。)を受けた特定非営利活動法人をいう。

(指定の申出)

第 3 条 地方税法第 3 1 4 条の 7 第 3 項の規定による申出は、規則で定めるところにより、次に掲げる事項を記載した申出書を市長に提出してしなければならない。

(1) 特定非営利活動法人の名称、代表者の氏名並びに主たる事務所及び市内の事務所(市内の事務所がない場合にあつては、主たる事務所。以下同じ。)の所在地

(2) 特定非営利活動法人の設立年月日

(3) 現に行っている事業の概要

(4) 前3号に掲げるもののほか、規則で定める事項

2 前項の申出書には、規則で定めるところにより、次に掲げる書類(当該特定非営利活動法人が相模原市認証法人(特定非営利活動促進法第9条の所轄庁が相模原市長である特定非営利活動法人をいう。以下同じ。)である場合にあっては、第1号及び第2号に掲げる書類)を添付しなければならない。

(1) 次条第1項各号に掲げる基準に適合する旨を説明する書類及び第6条各号のいずれにも該当しない旨を説明する書類

(2) 寄附金を充当する予定の具体的な事業の内容を記載した書類

(3) 直近の事業報告書等(前事業年度の事業報告書、計算書類(活動計算書及び貸借対照表をいう。))及び財産目録並びに年間役員名簿(前事業年度において役員であったことがある者全員の氏名及び住所又は居所並びにこれらの者についての前事業年度における報酬の有無を記載した名簿をいう。以下同じ。)並びに社員のうち10人以上の者の名簿(前事業年度の末日における社員のうち10人以上の者の氏名(法人にあっては、その名称及び代表者の氏名)及び住所又は居所を記載した書面をいう。以下同じ。)をいう。以下同じ。)

(4) 役員名簿(役員の氏名及び住所又は居所並びに各役員についての報酬の有無を記載した名簿をいう。以下同じ。)

(5) 定款等(定款並びにその認証及び登記に関する書類の写しをいう。以下同じ。)

(6) 前各号に掲げるもののほか、規則で定める書類

3 市長は、第1項の申出書の提出があったときは、遅滞なく、その旨及び次に掲げる事項を公告するとともに、前項第1号及び第2号に掲げる書類を、当該申出書を受理した日から1月間、公衆の縦覧に供しなければならない。

(1) 申出書の提出があった年月日

(2) 申出に係る特定非営利活動法人の名称、代表者の氏名及び主たる事務所の所在地並びにその定款に記載された目的

4 前項の規定による公告及び縦覧について必要な事項は、規則で定める。

(指定のために必要な手続を行う基準等)

第4条 市長は、前条第1項の申出書を提出した特定非営利活動法人が次に掲げる

基準に適合すると認めるときは、当該特定非営利活動法人について、指定のために必要な手続を行うものとする。

(1) 市内で活動する特定非営利活動法人であること。

(2) 次に掲げる基準のいずれかに適合すること。

ア 地域の課題の解決又は地域の活性化に資する特定非営利活動(特定非営利活動促進法第2条第1項に規定する特定非営利活動をいう。以下同じ。)に係る事業を行っている特定非営利活動法人であって、次に掲げる基準に適合すること。

(ア) 特定非営利活動に係る事業の実績を有し、かつ、その継続的な実施が見込まれ、当該事業の内容が次に掲げる基準に適合すること。

a 不特定かつ多数の市民の利益に資すること。

b 市の計画又は施策の方向性に沿うこと。

(イ) 当該特定非営利活動法人以外のものからの支援又は支持を受けている実績がある者で、次に掲げる基準のいずれかに適合すること。

a 実績判定期間(指定を受けようとする特定非営利活動法人の直前に終了した事業年度の末日以前5年(指定を受けたことのない特定非営利活動法人が指定を受けようとする場合にあつては2年、市長が特に認める場合にあつては2年を超えない期間で市長が定める期間)内に終了した各事業年度のうち最も早い事業年度の初日から当該末日までの期間をいう。以下同じ。)内の日を含む各事業年度における判定基準寄附者(当該事業年度における同一の者からの寄附金(寄附者の氏名(法人にあつては、その名称)その他の規則で定める事項が明らかな寄附金に限る。以下このaにおいて同じ。))の額の総額(当該同一の者が個人である場合には、当該事業年度におけるその者と生計を一にする者からの寄附金の額を加算した金額)が規則で定める額以上である場合の当該同一の者をいい、当該申出に係る特定非営利活動法人の役員である者及び当該役員と生計を一にする者を除く。以下同じ。)の数(当該事業年度において個人である判定基準寄附者と生計を一にする他の判定基準寄附者がいる場合には、当該判定基準寄附者と当該他の判定基準寄附者を1人とみなした数)の合計数に12を乗じてこれを当該実績判定期間の月数で除して得た数が規則で定める数以上であること。

- b 国若しくは地方公共団体その他の公共団体(以下「国等」という。)からの助成又は国等との協働による特定非営利活動に係る事業の実施その他の規則で定める国等からの支援又は支持を受けている実績があること。
 - c 地域の住民で構成する団体、企業等(以下「地域団体等」という。)からの助成又は地域団体等との協働による特定非営利活動に係る事業の実施その他の規則で定める地域団体等からの支援又は支持を受けている実績があること。
 - d 特定非営利活動促進法別表第1号から第18号までに掲げる活動を行う団体の運営又は活動に関する連絡、助言又は援助の活動に係る事業を行っている特定非営利活動法人であって、当該連絡等の活動による支援を受けている規則で定める数以上の団体からの支持を受けている実績があること。
 - e aからdまでに規定する実績に準ずるものとして市長が適当と認める実績があること。
- イ 当該特定非営利活動法人が、地方税法第37条の2第1項第4号又は第314条の7第1項第4号に掲げる寄附金を受け入れる特定非営利活動法人として、神奈川県又は神奈川県内の他の市町村の当該寄附金を定める条例で定められているもので、市長が適当と認めたものであること。
- (3) その運営組織及び経理について、次に掲げる基準に適合していること。
- ア 各役員について、次に掲げる者の数の役員の数に占める割合が、それぞれ3分の1以下であること。
 - (ア) 当該役員並びに当該役員の配偶者及び3親等以内の親族並びに当該役員と規則で定める特殊の関係のある者
 - (イ) 特定の法人(当該法人との間に発行済株式又は出資(その有する自己の株式又は出資を除く。)の総数又は総額の100分の50以上の株式又は出資の数又は金額を直接又は間接に保有する関係その他の規則で定める関係のある法人を含む。)の役員又は使用人である者並びにこれらの者の配偶者及び3親等以内の親族並びにこれらの者と規則で定める特殊の関係のある者
 - イ 各社員の表決権が平等であること。

ウ その会計について公認会計士若しくは監査法人の監査を受けていること又は規則で定めるところにより帳簿及び書類を備え付けてこれらにその取引を記録し、かつ、当該帳簿及び書類を保存していること。

エ その支出した金銭でその費途が明らかでないものがあること、帳簿に虚偽の記載があることその他の不適正な経理が行われていないこと。

(4) その事業活動について、次に掲げる基準に適合していること。

ア 次に掲げる活動を行っていないこと。

(ア) 宗教の教義を広め、儀式行事を行い、及び信者を教化育成すること。

(イ) 政治上の主義を推進し、支持し、又はこれに反対すること。

(ウ) 特定の公職(公職選挙法(昭和25年法律第100号)第3条に規定する公職をいう。以下この(ウ)において同じ。)の候補者(当該候補者になろうとする者を含む。)若しくは公職にある者又は政党を推薦し、支持し、又はこれらに反対すること。

イ その役員、社員、職員若しくは寄附者若しくはこれらの者の配偶者若しくは3親等以内の親族又はこれらの者と規則で定める特殊の関係のある者に対し特別の利益を与えないことその他の特定の者と特別の関係がないものとして規則で定める基準に適合していること。

(5) 次に掲げる書類について閲覧の請求があった場合には、正当な理由がある場合を除いて、これを主たる事務所及び市内の事務所において閲覧させること。

ア 事業報告書等、役員名簿及び定款等

イ 前条第2項第1号及び第2号に掲げる書類並びに第12条第2項各号に掲げる書類及び同条第3項の書類

(6) 次に掲げる書類について、正当な理由がある場合を除いて、インターネットの利用により公表すること。

ア 前条第2項第2号に掲げる書類及び第12条第2項各号に掲げる書類のうち規則で定めるもの

イ 前号アに掲げる書類(年間役員名簿、社員のうち10人以上の者の名簿及び役員名簿を除く。)

(7) 各事業年度において、事業報告書等を特定非営利活動促進法第29条の規定により所轄庁に提出していること。

(8) 法令若しくは条例(以下「法令等」という。)又は法令等に基づいてする行政

庁の処分に違反する事実、偽りその他不正の行為により利益を得、又は得ようとした事実その他公益に反する事実がないこと。

(9) 前条第1項の申出書を提出した日を含む事業年度の初日において、その設立の日以後1年を超える期間が経過していること。

(10) 実績判定期間において、第1号から第8号までに掲げる基準(第2号イに掲げる基準並びに当該実績判定期間中に、指定を受けていない期間が含まれる場合には、当該期間については第5号及び第6号に掲げる基準を除く。)に適合していること。

2 市長は、前項の規定により指定のために必要な手続を行おうとするときは、あらかじめ、当該手続を行うことについて相模原市特定非営利活動法人指定審査会(以下「審査会」という。)の意見を聴くものとする。

3 市長は、前項の規定により審査会の意見を聴いたときは、インターネットの利用その他の方法により、その結果を公表しなければならない。

(合併特定非営利活動法人に関する適用)

第5条 前2条に定めるもののほか、地方税法第314条の7第3項の規定による申出をしようとする特定非営利活動法人が合併後存続した特定非営利活動法人又は合併によって設立した特定非営利活動法人で第3条第1項の申出書を提出しようとする事業年度の初日においてその合併又は設立の日以後1年を超える期間が経過していないものである場合における前2条の規定の適用について必要な事項は、規則で定める。

(欠格事由)

第6条 第4条第1項の規定にかかわらず、市長は、次の各号のいずれかに該当する特定非営利活動法人について、指定のために必要な手続を行わないものとする。

(1) その役員のうち、次のいずれかに該当する者があるもの

ア 指定特定非営利活動法人が第20条第1項各号(第3号から第5号まで及び第10号を除く。次号において同じ。)又は第2項各号(第2号(第4条第1項第1号又は第2号に掲げる基準に適合しなくなった場合に限る。))を除く。次号において同じ。)のいずれかに該当し、指定を取り消された場合において、その取消の原因となった事実があった日以前1年以内に当該指定特定非営利活動法人のその業務を行う理事であった者でその取消しの効力を生じた日から5年を経過しないもの

- イ 特定非営利活動促進法第47条第1号イに該当する者
- ウ 禁錮以上の刑に処せられ、その執行を終わった日又はその執行を受けることがなくなった日から5年を経過しない者
- エ 特定非営利活動促進法の規定、暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律(平成3年法律第77号)の規定(同法第32条の2第7項の規定を除く。)若しくは神奈川県暴力団排除条例(平成22年神奈川県条例第75号)の規定に違反したことにより、若しくは刑法(明治40年法律第45号)第204条、第206条、第208条、第208条の3、第222条若しくは第247条の罪若しくは暴力行為等処罰に関する法律(大正15年法律第60号)の罪を犯したことにより、又は国税若しくは地方税に関する法律中偽りその他不正の行為により国税若しくは地方税を免れ、納付せず、若しくはこれらの税の還付を受け、若しくはこれらの違反行為をしようとすることに関する罪を定めた規定に違反したことにより、罰金の刑に処せられ、その執行を終わった日又はその執行を受けることがなくなった日から5年を経過しない者
- オ 暴力団の構成員等(暴力団(暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律第2条第2号に規定する暴力団をいう。以下この号及び第7号において同じ。)の構成員(暴力団の構成団体の構成員を含む。以下この号において同じ。)又は暴力団の構成員でなくなった日から5年を経過しない者をいう。第7号において同じ。)
- (2) 第20条第1項各号又は第2項各号のいずれかに該当し、指定を取り消された場合において、その取消しの効力を生じた日から5年を経過しないもの
- (3) 特定非営利活動促進法第67条第1項第2号若しくは第3号の規定により認定を取り消され、又は同条第3項において準用する同条第1項第2号若しくは第3号の規定により仮認定を取り消された場合において、その取消しの日から5年を経過しないもの
- (4) その定款又は事業計画書の内容が法令等又は法令等に基づいてする行政庁の処分に違反しているもの
- (5) 国税又は地方税の滞納処分の執行がされているもの又は当該滞納処分の終了の日から3年を経過しないもの
- (6) 国税に係る重加算税又は地方税に係る重加算金を課された日から3年を経過

しないもの

(7) 次のいずれかに該当するもの

ア 暴力団

イ 暴力団又は暴力団の構成員等の統制の下にあるもの

(指定の通知等)

第7条 市長は、指定があったときはその旨を、第4条第1項の規定による指定のための必要な手続を行わないことを決定したとき又は指定がなかったときはその旨及びその理由を、第3条第1項の申出書を提出した特定非営利活動法人に対し、速やかに、書面により通知しなければならない。

2 市長は、指定があったときは、インターネットの利用その他の方法により、その旨及び当該指定特定非営利活動法人に係る次に掲げる事項を周知しなければならない。

(1) 名称

(2) 代表者の氏名

(3) 主たる事務所及び市内の事務所の所在地

(4) 指定の効力を生じた年月日

(5) 定款に記載された目的

(6) 現に行っている事業の概要

(7) 前各号に掲げるもののほか、規則で定める事項

(名称等の使用制限)

第8条 指定特定非営利活動法人でない者は、その名称又は商号中に、指定特定非営利活動法人であると誤認されるおそれのある文字を用いてはならない。

2 何人も、不正の目的をもって、他の指定特定非営利活動法人であると誤認されるおそれのある名称又は商号を使用してはならない。

(指定の更新の申出)

第9条 指定の効力を生じた日の属する月の翌月の初日(この項に規定する申出をし、指定の更新を受けた場合にあつては、当該更新後の指定の効力を生じた日)から起算して5年を経過した日以後引き続き指定特定非営利活動法人として特定非営利活動を行おうとする指定特定非営利活動法人は、規則で定める期間(以下「更新申出期間」という。)内に、市長に指定の更新の申出をしなければならない。ただし、災害その他やむを得ない事由により更新申出期間内にその申出をす

ることができないときは、この限りでない。

- 2 第3条第1項及び第2項並びに第4条(第1項第3号イ及び第9号に係る部分を除く。)から第7条までの規定は、前項の申出について準用する。この場合において、第4条第1項第10号中「から第8号までに掲げる基準(第2号イに掲げる基準並びに当該実績判定期間中に、指定を受けていない期間が含まれる場合には、当該期間については第5号及び第6号」とあるのは、「及び第2号(イ」と読み替えるものとする。

(役員の変更等の届出及び事業報告書等の閲覧等)

第10条 指定特定非営利活動法人は、役員名簿又は定款に変更(次条第1項に規定する事項に係る変更を除く。)があったときは、遅滞なく、規則で定めるところにより、その旨を市長に届け出なければならない。

- 2 前項の規定にかかわらず、同項の規定による届出に係る指定特定非営利活動法人が相模原市認証法人であるときは、当該届出が、役員名簿の変更(役員の氏名及び住所又は居所の変更に限る。)によるものにあつては特定非営利活動促進法第23条第1項の規定による届出をもって、定款の変更によるものにあつては同法第25条第3項の認証の申請(市長の認証を受けている場合に限る。)又は同条第6項の規定による届出をもって、前項の規定による届出に代えることができる。

- 3 指定特定非営利活動法人は、事業報告書等、役員名簿又は定款等の閲覧の請求があつた場合には、正当な理由がある場合を除いて、主たる事務所又は市内の事務所のうち当該閲覧の請求をした者が選択した事務所(市内の事務所がない場合にあつては、主たる事務所。第12条第4項において同じ。)において、これを閲覧させなければならない。

- 4 指定特定非営利活動法人は、前項の書類(年間役員名簿、社員のうち10人以上の者の名簿及び役員名簿を除く。)について、正当な理由がある場合を除いて、インターネットの利用により公表しなければならない。

(名称等に関する変更の届出等)

第11条 指定特定非営利活動法人は、第7条第2項第1号から第3号まで、第5号又は第6号に掲げる事項に変更があつたときは、遅滞なく、規則で定めるところにより、その旨を市長に届け出なければならない。

- 2 市長は、前項の規定による届出(第7条第2項第6号に掲げる事項の変更による場合に限る。)があつた場合において、必要があると認めるときは、審査会に

意見を聴いた上で、当該指定特定非営利活動法人が第4条第1項各号に掲げる基準に適合するかどうかを確認しなければならない。

- 3 第1項の規定による届出(次項の規定により第1項の規定による届出に代えて行う申請又は届出を含む。第5項及び第14条において同じ。)が第7条第2項第1号又は第3号(主たる事務所の所在地に係るものに限る。)に掲げる事項の変更によるものであるときは、市長は、当該届出に係る事項の変更のために必要な手続を行うものとする。
- 4 第1項の規定にかかわらず、同項の規定による届出に係る指定特定非営利活動法人が相模原市認証法人であるときは、当該届出が、第7条第2項第1号又は第5号に掲げる事項の変更によるものにあつては特定非営利活動促進法第25条第3項の認証の申請(市長の認証を受けている場合に限る。)をもって、第7条第2項第3号に掲げる事項の変更によるものにあつては同法第25条第6項の規定による届出をもって、第1項の規定による届出に代えることができる。
- 5 市長は、第1項の規定による届出があつたとき又は第2項の規定により審査会の意見を聴いたときは、インターネットの利用その他の方法により、その旨又はその結果を公表しなければならない。

(申出書の添付書類及び役員報酬規程等の備置き、閲覧等)

第12条 指定特定非営利活動法人は、第3条第2項第1号及び第2号に掲げる書類を、規則で定めるところにより、指定の効力を生じた日から起算して5年間、主たる事務所及び市内の事務所に備え置かなければならない。

2 指定特定非営利活動法人は、毎事業年度初めの3月以内に、規則で定めるところにより、次に掲げる書類を作成し、翌々事業年度の末日までの間、主たる事務所及び市内の事務所に備え置かなければならない。

(1) 前事業年度の役員報酬又は職員給与の支給に関する規程

(2) 前事業年度の収益の明細その他の資金に関する事項、資産の譲渡若しくは貸付け又は役務の提供に関する事項、寄附金に関する事項その他の規則で定める事項を記載した書類

(3) 前2号に掲げるもののほか、規則で定める書類

3 指定特定非営利活動法人は、助成金の支給を行ったときは、規則で定めるところにより、遅滞なく、その助成の実績を記載した書類を作成し、その作成の日から起算して3年が経過した日を含む事業年度の末日までの間、これを主たる事務

所及び市内の事務所に備え置かなければならない。

4 指定特定非営利活動法人は、第3条第2項第1号若しくは第2号に掲げる書類又は第2項各号に掲げる書類若しくは前項の書類の閲覧の請求があった場合には、正当な理由がある場合を除いて、主たる事務所又は市内の事務所のうち当該閲覧の請求をした者が選択した事務所において、これを閲覧させなければならない。

5 指定特定非営利活動法人は、第2項各号に掲げる書類のうち規則で定めるものについて、正当な理由がある場合を除いて、インターネットの利用により公表しなければならない。

(役員報酬規程等の提出)

第13条 指定特定非営利活動法人は、規則で定めるところにより、毎事業年度1回、事業報告書等及び前条第2項各号に掲げる書類(当該指定特定非営利活動法人が相模原市認証法人である場合にあっては、同項各号に掲げる書類)を市長に提出しなければならない。

2 指定特定非営利活動法人は、助成金の支給を行ったときは、規則で定めるところにより、前条第3項の書類を市長に提出しなければならない。

(役員報酬規程等の公開)

第14条 市長は、指定特定非営利活動法人から提出を受けた第3条第2項第1号若しくは第2号に掲げる書類、事業報告書等、第11条第1項の規定による届出に係る書類、第12条第2項各号に掲げる書類若しくは同条第3項の書類(過去3年間に提出を受けたものに限る。)又は役員名簿若しくは定款等について閲覧又は謄写の請求があったときは、規則で定めるところにより、これを閲覧させ、又は謄写させなければならない。

(法人及び事業の概要報告書の提出等)

第15条 指定特定非営利活動法人は、規則で定めるところにより、毎事業年度1回、法人及び事業の概要報告書を市長に提出しなければならない。

2 市長は、前項の規定により提出を受けた概要報告書を、インターネットの利用その他の方法により公表しなければならない。

(指定特定非営利活動法人の合併)

第16条 指定特定非営利活動法人は、指定特定非営利活動法人でない特定非営利活動法人と合併しようとするときは、特定非営利活動促進法第34条第3項の認証の申請をした日から1月以内に、規則で定めるところにより、その旨を市長に

届け出なければならない。

- 2 市長は、前項の規定による届出があったときは、合併後存続する特定非営利活動法人又は合併によって設立する特定非営利活動法人が第4条第1項各号(第9号に係る部分を除く。)に掲げる基準に適合するかどうかを確認しなければならない。
- 3 市長は、第1項の規定による届出があったときは、インターネットの利用その他の方法により、その旨を公表しなければならない。
- 4 第3条第2項、第4条(第1項第9号に係る部分を除く。)、第6条及び第12条第1項の規定は、第1項の規定による届出について準用する。この場合において、必要な技術的読替えその他これらの規定の適用について必要な事項は、規則で定める。

(報告及び検査)

第17条 市長は、指定特定非営利活動法人が法令等、法令等に基づいてする行政庁の処分若しくは定款に違反し、又はその運営が著しく適正を欠いている疑いがあると認めるときは、当該指定特定非営利活動法人に対し、その業務若しくは財産の状況について報告をさせ、又はその職員に、当該指定特定非営利活動法人の事務所その他の施設に立ち入り、その業務若しくは財産の状況若しくは帳簿、書類その他の物件を検査させることができる。

- 2 市長は、前項の規定による検査をさせる場合においては、当該検査をする職員に、同項の疑いがあると認める理由を記載した書面を、あらかじめ、当該指定特定非営利活動法人の役員その他の当該検査の対象となっている事務所その他の施設の管理について権限を有する者(第4項において「指定特定非営利活動法人の役員等」という。)に提示させなければならない。
- 3 前項の規定にかかわらず、市長が第1項の規定による検査の適正な遂行に支障を及ぼすおそれがあると認める場合には、前項の規定による書面の提示を要しない。
- 4 前項の場合において、市長は、第1項の規定による検査を終了するまでの間に、当該検査をする職員に、同項の疑いがあると認める理由を記載した書面を、指定特定非営利活動法人の役員等に提示させるものとする。
- 5 第2項又は前項の規定は、第1項の規定による検査をする職員が、当該検査により第2項又は前項の規定により理由として提示した事項以外の事項について第

1 項の疑いがあると認められることとなった場合において、当該事項について検査を行うことを妨げるものではない。この場合において、第2項又は前項の規定は、当該事項に関する検査については適用しない。

6 第1項の規定による検査をする職員は、その身分を示す証明書を携帯し、関係人にこれを提示しなければならない。

7 第1項の規定による検査の権限は、犯罪捜査のために認められたものと解してはならない。

(勧告、命令等)

第18条 市長は、指定特定非営利活動法人について、第20条第2項各号のいずれかに該当すると疑うに足りる相当な理由がある場合には、当該指定特定非営利活動法人に対し、期限を定めて、その改善のために必要な措置を採るべき旨の勧告をすることができる。

2 市長は、前項の規定による勧告を受けた指定特定非営利活動法人が、正当な理由がなく、その勧告に係る措置を採らなかったときは、当該指定特定非営利活動法人に対し、その勧告に係る措置を採るべきことを命ずることができる。

3 第1項の規定による勧告及び前項の規定による命令は、書面により行うよう努めなければならない。

4 市長は、第1項の規定による勧告又は第2項の規定による命令をしたときは、インターネットの利用その他の方法により、その旨を公表しなければならない。

(その他の事業の停止)

第19条 市長は、特定非営利活動促進法第5条第1項に規定するその他の事業(以下この項において「その他の事業」という。)を行う指定特定非営利活動法人につき、同条第1項の規定に違反してその他の事業から生じた利益が当該指定特定非営利活動法人が行う特定非営利活動に係る事業以外の目的に使用されたと認めるときは、当該指定特定非営利活動法人に対し、その他の事業の停止を命ずることができる。

2 前条第3項及び第4項の規定は、前項の規定による命令について準用する。

(指定の取消しのために必要な手続を行う基準等)

第20条 市長は、指定特定非営利活動法人が次の各号のいずれかに該当するときは、指定の取消しのために必要な手続を行わなければならない。

(1) 第6条各号(第2号及び第3号を除く。)のいずれかに該当するとき。

- (2) 偽りその他不正の手段により指定又は指定の更新を受けたとき。
- (3) 更新申出期間内に、第9条第1項の申出をしなかったとき。
- (4) 第9条第1項の申出をした場合であって、当該指定特定非営利活動法人が同条第2項において準用する第4条第1項各号(第3号イ及び第9号に係る部分を除く。)に掲げる基準に適合しないと市長が認めたとき。
- (5) 第16条第1項の規定による届出があった場合であって、合併後存続する特定非営利活動法人又は合併によって設立する特定非営利活動法人が同条第4項において準用する第4条第1項各号(第9号に係る部分を除く。)に掲げる基準に適合しないと市長が認めたとき。
- (6) 正当な理由がなく、第18条第2項又は前条第1項の規定による命令に従わないとき。
- (7) 指定特定非営利活動法人から指定の取消しの申出があったとき。
- (8) 指定特定非営利活動法人が特定非営利活動促進法第43条第1項又は第2項の規定により設立の認証を取り消されたとき。
- (9) 特定非営利活動促進法第67条第1項第2号若しくは第3号の規定により認定を取り消され、又は同条第3項において準用する同条第1項第2号若しくは第3号の規定により仮認定を取り消されたとき。
- (10) 指定特定非営利活動法人が解散したとき(合併により解散したときを除く。)

2 市長は、指定特定非営利活動法人が次の各号のいずれかに該当するときは、指定の取消しのために必要な手続を行うことができる。

- (1) 特定非営利活動促進法第29条又は第13条若しくは第15条第1項の規定に違反して、書類の提出を怠ったとき。
- (2) 第4条第1項第1号から第4号まで又は第8号に掲げる基準に適合しなくなったとき。
- (3) 第10条第1項、第11条第1項又は第16条第1項の規定に違反して、届出をせず、又は虚偽の届出をしたとき。
- (4) 正当な理由がなく、第10条第3項又は第12条第4項の規定に違反して書類を閲覧させず、又は虚偽の書類を閲覧させたとき。
- (5) 正当な理由がなく、第10条第4項又は第12条第5項の規定に違反して書類を公表しなかったとき。

- (6) 第12条第1項(第16条第4項において準用する場合を含む。)又は第12条第2項若しくは第3項の規定に違反して、書類を備え置かず、又はこれに記載すべき事項を記載せず、若しくは不実の記載をしたとき。
- (7) 第17条第1項の規定による報告をせず、若しくは虚偽の報告をし、又は同項の規定による検査を拒み、妨げ、若しくは忌避したとき。
- (8) 前各号に掲げるもののほか、法令等又は法令等に基づいてする行政庁の処分に違反したとき。

- 3 市長は、指定が取り消されたときは、指定が取り消された特定非営利活動法人に対し、その旨及びその理由を、速やかに、書面により通知しなければならない。
- 4 市長は、指定が取り消されたときは、インターネットの利用その他の方法により、その旨及びその理由を周知しなければならない。
- 5 第4条第2項(指定特定非営利活動法人が同条第1項第2号に掲げる基準に適合しなくなった場合に限る。)及び第3項の規定は、第2項の指定の取消しについて準用する。この場合において、第4条第2項中「前項の規定により指定」とあるのは、「指定特定非営利活動法人が第20条第2項各号のいずれかに該当し、指定の取消し」と読み替えるものとする。

(協力依頼)

第21条 市長は、この条例の施行のため必要があると認めるときは、国又は他の地方公共団体その他の者に照会し、又は協力を求めることができる。

(適用除外)

第22条 第4条第1項第6号(第9条第2項において準用する場合を含む。次項において同じ。)及び第10号(第4条第1項第6号に掲げる基準に係る部分に限る。)の規定は、規則で定める小規模な特定非営利活動法人については、適用しない。

- 2 前項の規定により第4条第1項第6号及び第10号の規定を適用しないこととされた特定非営利活動法人が、指定又は指定の更新を受けたときは、当該特定非営利活動法人については、第10条第4項及び第12条第5項の規定は、適用しない。
- 3 前2項の規定は、第16条第1項の規定による届出をした指定特定非営利活動法人(合併後存続する特定非営利活動法人又は合併によって設立する特定非営利活動法人を含む。)について準用する。この場合において、必要な技術的読替え

その他これらの規定の適用について必要な事項は、規則で定める。

(委任)

第23条 この条例の施行について必要な事項は、規則で定める。

附 則

(施行期日)

1 この条例は、平成24年7月1日から施行する。

(経過措置)

2 この条例の施行の日前に地方税法第314条の7第3項の規定によりされた申出については、同日にされたものとみなし、この条例を適用する。

(附属機関の設置に関する条例の一部改正)

3 附属機関の設置に関する条例(昭和37年相模原市条例第17号)の一部を次のように改正する。

別表市長の部に次のように加える。

相模原市特定 非営利活動法 人指定審査会	個人の市民税の控除対象となる寄附金を受け入れる特定非営利活動法人を指定するための基準、手続等に関する条例(平成24年相模原市条例第 号)第4条第2項(同条例第9条第2項、第16条第4項及び第20条第5項において準用する場合を含む。)及び第11条第2項の意見を答申するとともに、特定非営利活動法人の指定に関する重要事項について、市長の諮問に応じて調査審議し、その結果を答申し、又は意見を建議すること。	6人以内	2年(補欠の委員の任期にあつては、前任者の残任期間)
----------------------------	---	------	----------------------------

提案の理由

個人の市民税の控除対象となる寄附金を受け入れる特定非営利活動法人を指定するための基準及び手続並びに当該寄附金を受け入れる特定非営利活動法人の適正な運営組織及び事業活動の実施を確保するための措置等について所要の定めをいたしたく提案するものである。

相模原市立障害者地域活動支援センター条例の一部を改正する条例について

相模原市立障害者地域活動支援センター条例の一部を改正する条例を次のように制定する。

平成24年5月30日提出

相模原市長 加山俊夫

相模原市立障害者地域活動支援センター条例の一部を改正する条例
相模原市立障害者地域活動支援センター条例(平成21年相模原市条例第7号)の一部を次のように改正する。

第4条に次の1項を加える。

2 市長は、前項ただし書の規定によりセンターを利用できる時間を短縮する変更をするときは、あらかじめその旨を市民に周知するものとする。

第6条中「利用しようとする者」の次に「(第16条第2号の事業を利用しようとする者に限る。)」を加える。

第17条を第18条とする。

第16条中「第9条まで」を「第6条まで及び第8条から第10条まで」に、「第10条」を「第7条第1項」に、「第4条ただし書、第5条第4号並びに第6条から第8条までの規定」を「第4条並びに第5条第4号」に、「第9条本文」を「第6条中「市長」とあるのは「次条第1項に規定する指定管理者」と、第8条、第9条及び第10条本文」に改め、「次条に規定する」を削り、同条を第17条とする。

第15条第1号中「第5条第18項」を「第5条第17項」に改め、「基本相談支援」の次に「、地域相談支援及び計画相談支援」を加え、同条を第16条とする。

第14条中「第10条」を「第11条」に改め、同条を第15条とする。

第13条を第14条とし、第12条を第13条とし、第11条を第12条とする。

第10条中「(以下「指定管理者」という。)」を削り、同条を第11条とする。

第9条を第10条とし、第8条を第9条とし、第7条を第8条とし、第6条の次に次の1条を加える。

(利用料金)

第7条 センターを利用する者が次の各号に掲げる相談支援を利用するときは、第11条の規定によりセンターの管理を行う者(以下「指定管理者」という。)に対し、当該各号に定める料金(以下「利用料金」という。)を納付しなければならない。

(1) 第16条第1号の地域相談支援 利用する者に係る法第51条の14第3項の規定に基づき厚生労働大臣が定める基準により算定した費用の額(その額が現に当該地域相談支援に要した費用の額を超えるときは、当該現に地域相談支援に要した費用の額)

(2) 第16条第1号の計画相談支援 利用する者に係る法第51条の17第2項の規定に基づき厚生労働大臣が定める基準により算定した費用の額(その額が現に当該計画相談支援に要した費用の額を超えるときは、当該現に計画相談支援に要した費用の額)

2 利用料金は、指定管理者の収入とする。

附 則

この条例は、平成25年4月1日から施行する。

提案の理由

相模原市立障害者地域活動支援センターの指定管理者が行う業務に係る規定の追加、利用料金に係る規定の追加その他所要の改正をいたしたく提案するものである。

議案第66号関係資料

相模原市立障害者地域活動支援センター条例の改正の概要

1 改正の内容

(1) 指定管理者が行う業務に係る規定の追加(第16条関係)

指定管理者が行う業務として、障害者自立支援法(平成17年法律第123号)第5条第17項に規定する相談支援のうち、基本相談支援に加え、新たに地域相談支援及び計画相談支援を行うこととするもの

(2) 利用料金に係る規定の追加(第7条関係)

地域相談支援及び計画相談支援について、これらに要した費用につき、厚生労働大臣が定める基準により算定した額を利用料金として徴収することとするもの

2 施行期日

平成25年4月1日

相模原市立緑第一障害者地域活動支援センター条例の一部を改正する条例について

相模原市立緑第一障害者地域活動支援センター条例の一部を改正する条例を次のように制定する。

平成24年5月30日提出

相模原市長 加山俊夫

相模原市立緑第一障害者地域活動支援センター条例の一部を改正する条例

相模原市立緑第一障害者地域活動支援センター条例(平成22年相模原市条例第6号)の一部を次のように改正する。

第6条中「利用しようとする者」の次に「(第16条第2号の事業を利用しようとする者に限る。)」を加える。

第17条を第18条とする。

第16条中「第9条まで」を「第6条まで及び第8条から第10条まで」に、「第10条」を「第7条第1項」に、「第5条第6号並びに第6条から第8条までの規定」を「並びに第5条第6号」に、「第9条本文」を「第6条中「市長」とあるのは「次条第1項に規定する指定管理者」と、第8条、第9条及び第10条本文」に改め、「次条に規定する」を削り、同条を第17条とする。

第15条第1号中「第5条第18項」を「第5条第17項」に改め、「基本相談支援」の次に「地域相談支援及び計画相談支援」を加え、同条を第16条とする。

第14条中「第10条」を「第11条」に改め、同条を第15条とする。

第13条を第14条とし、第12条を第13条とし、第11条を第12条とする。

第10条中「(以下「指定管理者」という。)」を削り、同条を第11条とする。

第9条を第10条とし、第8条を第9条とし、第7条を第8条とし、第6条の次に次の1条を加える。

(利用料金)

第7条 センターを利用する者が次の各号に掲げる相談支援を利用するときは、第11条の規定によりセンターの管理を行う者(以下「指定管理者」という。)に対し、当該各号に定める料金(以下「利用料金」という。)を納付しなければならない。

(1) 第16条第1号の地域相談支援 利用する者に係る法第51条の14第3項の規定に基づき厚生労働大臣が定める基準により算定した費用の額(その額が現に当該地域相談支援に要した費用の額を超えるときは、当該現に地域相談支援に要した費用の額)

(2) 第16条第1号の計画相談支援 利用する者に係る法第51条の17第2項の規定に基づき厚生労働大臣が定める基準により算定した費用の額(その額が現に当該計画相談支援に要した費用の額を超えるときは、当該現に計画相談支援に要した費用の額)

2 利用料金は、指定管理者の収入とする。

附 則

この条例は、平成25年4月1日から施行する。

提案の理由

相模原市立緑第一障害者地域活動支援センターの指定管理者が行う業務に係る規定の追加、利用料金に係る規定の追加その他所要の改正をいたしたく提案するものである。

議案第67号関係資料

相模原市立緑第一障害者地域活動支援センター条例の改正の概要

1 改正の内容

(1) 指定管理者が行う業務に係る規定の追加(第16条関係)

指定管理者が行う業務として、障害者自立支援法(平成17年法律第123号)第5条第17項に規定する相談支援のうち、基本相談支援に加え、新たに地域相談支援及び計画相談支援を行うこととするもの

(2) 利用料金に係る規定の追加(第7条関係)

地域相談支援及び計画相談支援について、これらに要した費用につき、厚生労働大臣が定める基準により算定した額を利用料金として徴収することとするもの

2 施行期日

平成25年4月1日

相模原市火災予防条例の一部を改正する条例について
相模原市火災予防条例の一部を改正する条例を次のように制定する。

平成 24 年 5 月 30 日提出

相模原市長 加 山 俊 夫

相模原市火災予防条例の一部を改正する条例
相模原市火災予防条例(昭和 48 年相模原市条例第 36 号)の一部を次のように改正する。

附則に次の見出し及び 4 項を加える。

(指定数量の 5 分の 1 以上指定数量未満の危険物の貯蔵及び取扱いに係る技術上の基準等に関する経過措置)

10 危険物の規制に関する政令の一部を改正する政令(平成 23 年政令第 405 号。第 13 項において「改正政令」という。)による危険物の規制に関する政令第 1 条第 1 項の規定の改正により、新たに指定数量の 5 分の 1 以上指定数量未満の危険物を貯蔵し、又は取り扱う場所となるもの(以下この項から第 12 項までにおいて「新規対象」という。)のうち、第 32 条の 2 第 2 項第 9 号に定める基準に適合しないものの位置、構造及び設備に係る技術上の基準については、同号の規定は、当該新規対象が次に掲げる基準の全てに適合している場合に限り、適用しない。

- (1) 当該新規対象の危険物を取り扱う配管は、その設置される条件及び使用される状況に照らして、十分な強度を有し、かつ、漏れない構造であること。
- (2) 当該新規対象に係る危険物の数量を当該危険物の指定数量でそれぞれ除した商の和が、平成 24 年 7 月 1 日において現に貯蔵し、又は取り扱っている危険物の数量を当該危険物の指定数量でそれぞれ除した商の和を超えないこと。

11 新規対象のうち、第 32 条の 2 第 1 項第 16 号イに定める基準に適合しないものの貯蔵及び取扱いに係る技術上の基準については、同号の規定は、平成 25 年 12 月 31 日までの間は、適用しない。

1 2 新規対象のうち、第 3 2 条の 2 第 2 項第 1 号から第 8 号まで、第 3 2 条の 3 の 2 (第 3 号を除く。)又は第 3 2 条の 4 第 2 項(第 1 号、第 1 0 号及び第 1 1 号を除く。)に定める基準に適合しないものの位置、構造及び設備に係る技術上の基準については、これらの規定は、当該新規対象が第 1 0 項第 2 号に掲げる基準に適合している場合に限り、平成 2 5 年 6 月 3 0 日までの間は、適用しない。

1 3 改正政令による危険物の規制に関する政令第 1 条第 1 項の規定の改正により新たに指定数量の 5 分の 1 以上(個人の住居で貯蔵し、又は取り扱う場合にあつては、指定数量の 2 分の 1 以上)指定数量未満の危険物を貯蔵し、又は取り扱うこととなる者は、平成 2 4 年 1 2 月 3 1 日までにその旨を消防長に届け出なければならない。

附 則

この条例は、平成 2 4 年 7 月 1 日から施行する。

提案の理由

危険物の規制に関する政令(昭和 3 4 年政令第 3 0 6 号)の改正により、炭酸ナトリウム過酸化水素付加物が危険物に追加されたことに伴う経過措置の規定を追加いたしたく、提案するものである。

議案第 68 号関係資料

相模原市火災予防条例の改正の概要

1 改正の内容

危険物の規制に関する政令(昭和34年政令第306号)の改正により、炭酸ナトリウム過酸化水素付加物が危険物に追加されたことに伴う経過措置の規定の追加(附則第10項から第13項まで関係)

(1) 新たに指定数量の5分の1以上指定数量未満の危険物を貯蔵し、又は取り扱う場所となるもの(以下「新規対象」という。)のうち、危険物を取り扱う配管の基準に適合しないものの位置、構造及び設備に係る技術上の基準については、当該新規対象が次に掲げる基準の全てに適合している場合に限り、適用しないこととするもの

ア 当該新規対象の危険物を取り扱う配管は、その設置される条件及び使用される状況に照らして、十分な強度を有し、かつ、漏れない構造であること。

イ 当該新規対象に係る危険物の数量を当該危険物の指定数量でそれぞれ除した商の和が、平成24年7月1日において現に貯蔵し、又は取り扱っている危険物の数量を当該危険物の指定数量でそれぞれ除した商の和を超えないこと。

(2) 新規対象のうち、危険物を収納する内装容器等の表示の基準に適合しないものの貯蔵及び取扱いに係る技術上の基準については、平成25年12月31日までの間は、適用しないこととするもの

(3) 新規対象のうち、危険物を貯蔵し、又は取り扱う場所の位置、構造及び設備の全てに共通する技術上の基準(危険物を取り扱う配管の基準を除く。)等に適合しないものの位置、構造及び設備に係る技術上の基準については、当該新規対象が(1)イに掲げる基準に適合している場合に限り、平成25年6月30日までの間は、適用しないこととするもの

(4) 新たに指定数量の5分の1以上(個人の住居で貯蔵し、又は取り扱う場合にあつては、指定数量の2分の1以上)指定数量未満の危険物を貯蔵し、又は取り扱うこととなる者は、平成24年12月31日までにその旨を消防長に届け出なければならないこととするもの

2 施行期日

平成24年7月1日

平成24年度相模原市一般会計補正予算(第2号)

平成24年度相模原市の一般会計の補正予算(第2号)は、次に定めるところによる。

(歳入歳出予算補正)

- 第1条 歳入歳出予算の総額248,317,700千円に歳入歳出それぞれ238,300千円を追加し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ248,556,000千円とする。
- 2 歳入歳出予算の補正の款項の区分及び当該区分ごとの金額並びに補正後の歳入歳出予算の金額は、「第1表歳入歳出予算補正」による。

平成24年5月30日提出

相模原市長 加山俊夫

第1表 歳入歳出予算補正

歳 入

款	項	補正前の額	補正額	計
60 県支出金		千円 10,770,303	千円 228,000	千円 10,998,303
	10 県補助金	3,756,561	228,000	3,984,561
65 財産収入		779,211	73	779,284
	5 財産運用収入	103,885	73	103,958
70 寄附金		21,540	10,000	31,540
	5 寄附金	21,540	10,000	31,540
80 繰越金		1,517,700	227	1,517,927
	5 繰越金	1,517,700	227	1,517,927
歳 入 合 計		248,317,700	238,300	248,556,000

歳 出

款	項	補正前の額	補正額	計
10 総務費		千円 25,662,170	千円 10,300	千円 25,672,470
	5 総務管理費	16,634,613	10,073	16,644,686
	13 市民生活費	6,503,645	227	6,503,872
15 民生費		99,036,236	228,000	99,264,236
	5 社会福祉費	40,562,186	228,000	40,790,186
歳 出 合 計		248,317,700	238,300	248,556,000